

# 第 53 回神奈川地方会秋季例会と日本医史学会の合同例会

2019年9月28日 土曜日 14:00～

鶴見大学会館（JR 鶴見駅 3分）

## 企画『戦中戦後の医療・看護体制を振り返る』

今回の例会は、第二次世界大戦の戦中戦後における医療・看護活動に焦点を合わせました。戦地での衛生兵、救護看護婦の活動についてのご講演をお二人の演者をお願いいたしました。そして、特別講演として沖縄で戦後の地域医療を支えてこられた医介補であった宮里善昌さんのご次男から、お父様の医介輔としての活動やお人柄についてご講演をいただきます。

14:00 開会挨拶 松田隆秀

講演Ⅰ 14:05～14:50（発表40分、質疑5分）

座長：石上友章

演者：順天堂大学医学部医史学研究室 鈴木紀子先生

### 『衛生兵の語りから受け継ぐ歴史－元衛生兵へのインタビューを通して－』

近年、「語る歴史、聞く歴史」として、文字に残されてこなかった体験の語りや、歴史学の可能性を広げると認識され始めています。報告者は、第二次世界大戦の元衛生兵2名（96歳、94歳）の方から、体験を聞く機会に恵まれ、衛生兵の業務、捕虜生活の実態を聞くことができました。想いを受け止め、医療に携わる者として、戦争体験を次世代にどのように語り継ぐことができるのか、考える機会にしたいと思えます。

講演Ⅱ 14:50～15:50（講演50分、質疑10分）

座長：桐生迪介

演者：日本赤十字看護大学 川原由佳里先生

### 『第二次世界大戦におけるビルマ派遣日本赤十字社救護看護婦の復員過程』

第二次世界大戦にてビルマに派遣された日本赤十字社救護班の看護婦の敗戦から復員までのプロセスを明らかにした。看護婦は、敗戦という事実で茫然自失とし、次いで先行きの見えない不安、規律の乱れ、混乱と恐怖、屈辱感を体験した。連合軍の指揮下では、ジュネーブ条約で保護が規定されている衛生要員として遇され、任務が与えられた。やがて捕虜の身分とは異なることを理解し、気を取り直して勤務に励んだ。次第に安心を取り戻したが、前線での過酷な体験の共有の難しさを感じることもあった。

特別講演 16:00～17:00（講演50分、質疑10分）

座長：関根 透

演者：社会医療法人敬愛会理事長 宮里善次先生

### 『沖縄で活躍した最後の医介輔：父の生涯を見つめて』

終戦後の沖縄、奄美において医師不足を補い地域医療を支えるための医介補制度。医介補であった宮里善昌さんは多くの患者さんと向き合い、沖縄の地域医療を支えて最後まで任務を果たされました。ご講演いただくのは、医療法人理事長、小児科医として沖縄の地域医療を担われているご子息の善次氏であります。2008年87歳まで現役として医介輔の役割を立派に果たされたご尊父の生涯を振り返っていただき、医介輔制度についてのご講演をお願いいたしました。

閉会挨拶 島田道子

※今回は一般演題の公募はありません。